



本加2
653
1



和字正濫要略

いし魚の人の目限あるをりてかき下りあきよつうん
あやかたんのいし人の世を何らわのくせいさきま
うれ要まつうすんはよふあやうきかたつひ俗
あはらるる事なうはこいし和字をりてあきふ人の
神珠う及組圖序よ詩人の鈴鍵といふふか行これふ
あはらるる事なうはこいし和字をりてあきふ人の
をんばきそ何らわの昔よりあやまり何らわの今の人の
はらひやとをえりて和字正濫要略となつて古き
して謗する事な私を記るを敢て若明魏法源と



いふ人のなりつゝいさかひをたねに
類なきひらよかたしとてなれりし
つり勅撰よむ所のしるしあり

おとよふおきりれいふえは
江志を混せはふかきあり
古今ふ世のいれあふぬら
同しりるいふとていふ
多ふかえぬる事もいふ
いふふくありし事億計
つとせ給ひて仁賢天皇と
弘計王、顯宗天皇也

古事記の意祈王、哀祈王と
假名に弘袁といふよを
億の大の義、弘の小なる
を計の何の義といふ
限せといは法申いつ
事あつたふ多し
わよかた清言す
お明魏あひひらみ
まらちうらもの
ま名の四聲
事らのれけ國

以呂波 てき
てりり
假字 五十音
おけ用ら者
ちく世俗
易中 おけ
実
作偏 おけ
おけ

准ふへーかゝのこも三教ハ入おハ和漢もよハ
以呂波を物出朱之後四十七字をよて和漢ハふ
及ふと言をもとて新にせふけりるは言をくハ假
名よ同くして字のよにて平上去入をふけりるハ
四聲の字をるこねこの和漢の字ハあてて無窮
物文て用るりあさハ假名はまらうハ五十音の
中にあいうえをやいゆはわおうとだけ三つの内を
いろはよけ申ふいけうのこ言をらうれてあ十三
字のうちいぬおをがのこ對六字これ用おるハ
字也とわはひふハはの申下にありてわいうを

とよゆりき後又あかり混障めわひ發等のふれを乃
やうまあしくまれ生いられ埋等のうれひはほきり
んこうんをほられハ急やとまらなり

字を及ふハ二字にて及と上を切字下を韻字ト云
下の韻字を平上去入ハ定まれと和漢のけしれ
ハ用於上ハ字んいお等をふつハ汪切ア切
乙ノ切伊切鳥ノ切旅ノ切をわハ皆あいうをの
字をり羊切以切夷切愈切庚切亦切余ノ切
與切欲切支切餘ノ切をハやいゆはの字をり
王ノ切為切草切干切雲切禹切羽切をハ

わおろゑれの字ありこれをもて古書の假名に
うろゑろゑ假名のうろゑ假名

音もさるまゝ

此説
くろゑ

私云源平盛衰記少納言信西双六目ニシユ四シユ三トイハルハ古
宗揚妻把下双六ヲ撰セハル時コイ目ニシユ四シユ三ノ出タレハ
此位ヲ授ク五位ハ赤衣ナレハ夫ヨリ朱四朱三ト云ル由ヲ云リ
今案ケテ説智アル人の偽リ多シト云ル類ニテ法皇ノ思ハスモ
信西ニ於テサセ玉ヘハ廣才ノ才エアル人ナレハサスカニ不知トハ
イナヒカタク造リコトニ云レタルヘシ偽テ双六ノ重リタル目ノ
同ハ皆重ノ字ノ辨倍アリ 重一 ヤウノ漢 重二 呉ニユサシ
音ノ辨倍 重三 音ノ重
將語 重四 又ニユク 重五 トコト 重六 ヤウノ
是ニテ音ノ多寡ナルコトヲ知ヘシ本字ニヨリテ音通ニ
假名ノ差ヘルコトヲモナク音使ヲ宗トセリ 音通ニ
源氏ノ近江流の双六うろゑれは河おもてん

うろゑれも重三重四と云テもるん

一ニ三ニ一四一 五一 一六 三二 四三
五三 五四 五六 同前ニ一度ニ出タルヨ 重目ト云

重韻會云備用切厚也冬韻博容切音与蟲同地名

直龍切陽韻叶傳王切 テウ 腫勻柱勇切厚也 チヨウ

或曰習三習四トモ云

三人ノ目ヲ合スレハ六ツアリ 雙六ノ下場ニ五ハ三

二ノ石ヲ下ルハ事アタハサレハ六ツノ目五ツニサレリ
四ハ重ニヲオロサ子ハ五ツノ目四ツニ及ハズ

目一箇ノ神アリ阿那律ハ有為ノ肉眼盲タレモ能
 天眼ヲ以テ三千界ヲ見ル也問ノ盲者モ五色明闇
 等ヲ聞テ信スレハ智眼ニハ礙ナシ見テ悉器ルハ
 盲ノ見サルニ劣レリ正理ヲ聞得スレテ却テ慢
 幢ヲ高ク豎ルハ智眼早ク盲タル人ナリ真鳴モ
 金鉞ヲ投テ手ヲ拱ク處ナリ諺曰盲瞽不畏
 蛇ト街談巷説モ採ヘキ事アリトハ蓋此事也

引證書目

- 神珙九弄及紐圖 新勅撰 古今集 古事記
- 日本紀 倭名抄 類會 延喜式
- 萬葉集 六帖 玉篇 家求
- 千載集 長能家集 源氏物語 白氏文集
- 朗詠集 真字伊勢物語 字彙 舊事記
- 藥師寺佛 足石贊歌 後撰集 三代實錄
- 後拾遺 金葉 姓氏錄 菅家万葉
- 新古今 拾芥抄 類聚國史 仲又家集
- 忠見家集 兼盛家集 源仲正家集 兼輔家集

あれと點しうまやまをれきり古事記に神傳
伊波禮毗古命自伊下五これ明證なり

彌萬葉いゝ今云萬葉集四家持哥よ

あひまを忘りて忘るる人と思へ深き心より
今のなかゆふ點をりゆふ六帖よいふあり
よ直まされり萬葉集五よ伊与余麻須萬須と
ちあをいゝの後のいを略せる詞多りよとて同
類を一通せれいゝいふも同をいゝとて
いふ後のいを略せられいゝつても義ハ通たり

威後稜いが日本記神代紀上は稜威此云祚都注ありとてふハ稜威

櫛髮殿かうい今云和名按ノ殿音雲玉篇ノ新考切

蹄躡つまいり和名よ牛病とあるを馬とハ誤り

愛知あいり和名今云多と云ふは誤り

彈丸ふいり今云和名よ彈弓唐韻云彈弓徒丹

遠俗音放丸号也文字集略云竹弦弓也玉篇彈

暖宮の下に孰上弓上とありさいりといふ蒙求に潘岳

下にく點をるをんせよふとりさいり物さいり

忘るを出しれ和名よれわぬとハ誤り

臍わる和名般子紅字誤れり般祖冬切音宗說文ニ

木蓮子いる和名今云萬葉よいる日本紀

語て萬葉ととり是ハ中下のひのし地いの下り
日本紀和名と記をみる

倭食饋かきのき此いひ今云倭食と和名ハ倭食ハ

作不玉篇ハ倭食餼同字あり

初いひ古今物ハ蕃薇をさく物名の名をいひ

第三卷

覆おほよい不い童い点いあいやい浦いるいやいよい

大おろきいるい萬葉ハ大寸と假名ハかちい假名ハ

ふいあいれいと大の時ハい類い也

多いあいりいけい不いあいといをい題いハい浦いるいやいよい

騰魚をこい知今云和名ハ騰直徳國字也

御音にたいひ日本神代卷下云御音此オト游ト等ト那ト比

襪衣をいほいのいころいもい直衣と今云和名ハ直衣也

淫いしいりいおいまいすいるいついのいころいもいといそい俗い

直衣を用いといあいりいなり

飛廉草いぬいりいてい和名今云い名い漢いをいかいしいまいるい

第四卷

愛知いちいおい名い近い江い今云和名ハいちいおい名い近い江い

決明いけいといくい今云い名い漢いをいかいしいまいるい

餌い香い市いあいりい今云い名い漢いをいかいしいまいるい

天皇使^シ遣^ハ田根命^{タネノミコ}資財^{シカラモノヲ}露置^シ於^{ケル}鉾香市^{ヒコノカ}邊橋本之上^{トノ}

遂以^{シテ}鉾香長野邑^{ヒコノカノチノ}賜^ハ物部目大連^{モノベノミオホノタヂ}

罅^ヒ選^ヒ之^ヲ心^ヲ栗^ト石^ト榴^ト今^ノ菓^ノ小^ナ和^ノ名^ヲ罅^ノ發^ノ師^ノ統^ノ也

女利^メとあり發^ノ字^ノとそくまりし誤^ノなり

神酒^{カミメ}萬葉^ノ今^ノ云^フ之^ノわの^ノ倭^ノ名^ヲと^シて^シる^ヲ萬^ノ葉^ノ

遊女^{ウツメ}た^ノえ^ノれ^ノあ^ノ今^ノ云^フ和^ノ名^ヲあ^ノ字^ノ加^ハ禮^ト女^ノ又^ク云^フ

尚^モ曾^モ比^シと^シて^シ誤^ノなり

鯨^{クジラ}す^ノい^ノえ^ノら^ノ楚^ノ割^ト今^ノ云^フ和^ノ名^ヲ抄^シ云^フ魚^ノ條^ノ遊^ノ仙^ノ窟^ノ云^フ

東海^{トウカイ}鯨^ノ條^ノ魚^ノ條^ノ須^ノ波^ノ夜^ノ利^ノ誤^トて^シ予^ノ出^スし^テ之^ノ字^ノ

音^ノ曲^ノ魚^ノ名^ヲ他^ノ字^ノあり楚^ノ割^トと^シて^シ意^ハ楚^ノハ^ノ木^ノ乃^シ

すはえりのあふ魚を切はすいりのと云ふは此の字

右の障りあり同類をえぬすいりとはぬ

楚割五卷

長能^{ナガノリ}欲^ハふ^ルあ^ノ人^ノ辨^ノ公^ノ楚^ノ割^ト今^ノ云^フ千^ノ載^ノ集^ノ上^ノ下^ノは^ノわ^ノ

口^ノそ^ノあ^ノる^ノ乃^シや^ノ楚^ノ割^トを^シた^ノれ^ノあ^ノる^ノ好^シし^テ出^スる^ノ所^ノは^ノ

長能^{ナガノリ}家^ノ集^ノと^シて^シい^フく^ノか^ノつ^ノと^シて^シ伝^ヘる^ノ

人のものいひゆるるやあとのひてものいひをえて

海^ノと^シて^シあり^テけ^レる^ノ夫^ノの^ノよ^シき^レは^ノ一^ノ宮^ノの^ノ九^ノ條^ノ

かきつゝすすむもして

らを伝^ヘし^テ神^ノら^ノぬ^シゆ^リと^シて^シあ^ノる^ノい^ハひ^ノか^ノつ^ノん^ノや^ノ

五

ふゆのあつちとたふ浪うりるをさすや
又ふゆのあつちとたふ浪うりるをさすや
ふゆのあつちとたふ浪うりるをさすや
ふゆのあつちとたふ浪うりるをさすや
ふゆのあつちとたふ浪うりるをさすや

ふゆのあつちとたふ浪うりるをさすや
又ふゆのあつちとたふ浪うりるをさすや
ふゆのあつちとたふ浪うりるをさすや
ふゆのあつちとたふ浪うりるをさすや
ふゆのあつちとたふ浪うりるをさすや

燭しやく今云和名燭多を誤り下准之

栗田ありふ今云此次燻堆ありふ次あり
るを次を誤り

標ひらありふ今云ありふ和名棟標ハ泥天と
誤り

枋かありふ今云和名初音るを誤り
枋ハ玉篇ノ槩 古記飛買ニ切老人扶也 枋同上

蚰こ蟻ありふ今云蟻ハ延るを誤り

雲聚うんありふ今云和名ハ七云珠と
を誤り

野鬚華の假名よかく

い

膽い 和名類聚鈔第三云 中黃子云 膽都敢友

和名伊為中精之府 按精當作正

同第廿二人參 和名久未乃伊 世俗は熊膽、諸痛に通

して上藥なるやう云はれ久參ハ神草と名付る

ほもの葉をれ熊膽よりして和名を付するれ

知れんこれまゝ伊の字を用ゐん膽の熊とい

る膽也日本紀第三神武紀は大和のいこま山を

膽駒山とかれ景行紀は近江乃い山は膽吹

とあり垂仁天皇の皇女膽香定姫命と古事記

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

伊香帯日子命とあり姫と日子とい異説あり
安閑紀は築對膽狹山部と有ハ和名を考ふる
豊前國京都郡と下毛郡に諫山あり此山
より此向の流人多く諫といひは假名ある
或思ふ一齋明紀は膽振鈕蝦夷自注は膽振鈕
此云伊淳梨婆陪とあり又天武紀は膽香瓦臣
とあり氏ハ伊香也和名ハ陸奥國の郡名膽澤と
伊依波と注は山上出しく膽の假名いるる證也
これハ和名より用る河ふありぬハ委しくつぎまへを
ともありて是ハ膽の假名を為ありとみるに

執して熊膽ともくまのおとかく今ハ膽駒
膽吹もおこまおきよやくしよしゆに
ゆの熊膽ハそもゆの久伊駒伊吹ともかく
不をいさるしおたりといふをこふハあり
ゆりゆり證をいしこきまあり
瑞籬 いざき 和名云美豆加岐一云以賀岐萬葉
第十一伊垣俗云おつきと云へし井の字此ゆ
よら垣をんや云神代ゆありい記よ又字
らりて後の名ありんやありてこふと云て出を
因幡いるは和名以奈八と記を舊事本紀第十

稻葉國古事記上の稲羽とかり行平卿立
ころれいふんれいといふてふまゝに
やいふ一説あるを信ずるに
入て五畿七道次第に載せしむるに但馬に下る見
乃上あり因幡國の名なるるに
け外古記に往者とりてふまゝに
假名おのりまぢ之近本出あり俗書に因乃
字に付て僻字を好ておふはて
とあるに付てあるも多し
又因乃玉篇に於人切に漢音初の
とあるに付てあるも多し

全のへあれと安於寒伊於脂一於遠
引あつせきりんある事を決と合

引依いあき遠江郡名和名伊奈佐萬葉第十四

伊奈佐保曾江とありこれも彼俗に引の字

みまておるさそとて

玉篇に余忍以振二切とあり

以余止切るれいんは

これよおのり假名あるに因乃江との伊

引のやいゆの以無なり

印南野いあき和名播磨國印南郡を伊奈養

景行天皇^{コウ}紀^キの縮^{シュク}日^{ニチ}萬^{マン}葉^{エフ}の印^{イン}南^{ナン}縮^{シュク}日^{ニチ}縮^{シュク}見^ミ
 不欲^{イナク}見^ミ野^ノ將^{シヤウ}行^{キョウ}又^{マタ}假^カ名^ナ伊^イ牟^ム美^ミともか^カり^リ申^シ
 小^コ縮^{シュク}見^ミと^トち^チる^ルい^イる^ルの^ノあ^アら^ラく^クひ^ヒと^ト同^{ドウ}顔^{ガン}通^{ツウ}ち^チり^リ是^シも
 又^{マタ}俗^{ソク}に^ニ印^{イン}此^シ字^ジを^ヲな^ナせ^セお^オも^モす^スこと^トち^チき^キし^シつ^ツに^ニ
 り^リの^ノこ^コを^ヲま^マる^ルは^ハ印^{イン}城^{シヤウ}又^{マタ}乃^ノふ^フい^イん^ンす^スて
 わ^ワへ^ヘま^マの^ノと^ト日^{ニチ}本^{ホン}紀^キの^ノ御^ミ問^{モン}城^{シヤウ}入^イ彦^{ヒコ}五^イ十^ソ瓊^{シユウ}殖^{シツ}
 天^{テン}皇^{スウ}の^ノ宗^{ソウ}神^{シン}天^{テン}皇^{スウ}の^ノ清^{セイ}名^{メイ}を^ヲ古^コ事^ジ記^キの^ノ
 御^ミ真^マ木^キ入^イ日^{ニチ}子^シ印^{イン}惠^エ命^{メイ}と^トか^カき^キて^テ印^{イン}惠^エの^ノ二^ニ字^ジ以^イ
 音^{オン}と^ト流^{リウ}と^ト又^{マタ}日^{ニチ}本^{ホン}紀^キの^ノ垂^シ仁^ニ天^{テン}皇^{スウ}の^ノ皇^{スウ}子^シ五^イ十^ソ瓊^{シユウ}敷^{シキ}
 入^イ彦^{ヒコ}命^{メイ}を^ヲ古^コ事^ジ記^キの^ノ印^{イン}色^{シキ}之^シ入^イ日^{ニチ}子^シ命^{メイ}と^ト出^デて

武藏^{ムサシ}紀^キ玉^{タマ}形^{カタ}千^チ
 五十^{イソ}子^コと^トあ^ア村^{ムラ}の^ノ
 イカ^イコ^コと^トあ^アり
 多^タ五^イ十^ソ以^イい^イは^ハし
 古^コ言^{ゴン}の^ノい^イは^ハし
 此^{コノ}地^チ名^{メイ}兼^{ケン}倉^{ソウ}を^ヲ表^ヒす
 其^{コノ}地^チ理^リ
 高^{タカ}輪^{リン}皇^{スウ}の^ノ伊^イ牟^ム子^シ
 混^{マシ}り^テ馬^{ウマ}琴^{シン}と^ト
 古^コ言^{ゴン}の^ノ古^コ蹟^{セキ}
 古^コ言^{ゴン}の^ノ古^コ蹟^{セキ}
 古^コ言^{ゴン}の^ノ古^コ蹟^{セキ}
 古^コ言^{ゴン}の^ノ古^コ蹟^{セキ}
 古^コ言^{ゴン}の^ノ古^コ蹟^{セキ}

印^{イン}色^{シキ}の^ノ二^ニ字^ジ以^イ音^{オン}と^ト流^{リウ}と^ト五^イ十^ソの^ノ訓^{クン}い^イら^ラぬ^ヌ萬^{マン}
 葉^{エフ}第^{ダイ}一^{イチ}小^コ筏^{フネ}を^ヲ五^イ十^ソ日^{ニチ}太^{タイ}と^トち^チり^リ脱^{ダツ}又^{マタ}伊^イ牟^ム切^キと^ト
 事^{コト}を^ヲい^イは^ハす^スは^ハ流^{リウ}を^ヲ流^{リウ}と^トち^チり^リあ^アら^ラぬ^ヌは^ハ
 印^{イン}の^ノ字^ジを^ヲ用^{ヨウ}ひ^ヒて^テあ^アら^ラぬ^ヌは^ハ流^{リウ}と^トち^チり^リあ^アら^ラぬ^ヌは^ハ
 必^{カナラ}ず^ニあ^アら^ラぬ^ヌは^ハ流^{リウ}と^トち^チり^リあ^アら^ラぬ^ヌは^ハ
 初^{ハツ}学^{ガク}此^{コノ}迷^{メイ}ひ^ヒと^トそ^ソか^カら^ラぬ^ヌは^ハ流^{リウ}と^トち^チり^リあ^アら^ラぬ^ヌは^ハ
 此^{コノ}和^ワ語^ゴ乃^ノ邪^{ジャ}魔^マと^トち^チり^リあ^アら^ラぬ^ヌは^ハ流^{リウ}と^トち^チり^リあ^アら^ラぬ^ヌは^ハ
 わ^ワら^ラぬ^ヌは^ハ流^{リウ}と^トち^チり^リあ^アら^ラぬ^ヌは^ハ流^{リウ}と^トち^チり^リあ^アら^ラぬ^ヌは^ハ
 言^{ゴン}偃^{エン}々^{ツツ}絃^{ケン}歌^カを^ヲ樂^{ラク}し^シて^テあ^アら^ラぬ^ヌは^ハ流^{リウ}と^トち^チり^リあ^アら^ラぬ^ヌは^ハ
 刀^{タウ}を^ヲ擗^{ヒキ}て^テ牛^{ウシ}を^ヲ割^ワひ^ヒて^テあ^アら^ラぬ^ヌは^ハ流^{リウ}と^トち^チり^リあ^アら^ラぬ^ヌは^ハ
 孔子^{コウジ}も^モ戲^キの^ノ口^クを^ヲ流^{リウ}と^トち^チり^リあ^アら^ラぬ^ヌは^ハ流^{リウ}と^トち^チり^リあ^アら^ラぬ^ヌは^ハ

て慈入眉を鬚子めりまふへし 鐵鍼一刺

忌部 いび(和名)阿波國麻殖^子惠郡の郷の名
伊無倍と原とこれ又誰も知れる假名るれや
彼俗ちよいしと云 祠今案おひとまへし
しるぬよの假名を用る産と出とおとれへ
しとしる意をいひあつたされおとれと
推量すらすを彼りより音訓とよみぬ
人るれんををやいゆゆのいあよかり千倍
切られわおのおりややいのいよけらぬ
知とこれよりてゆまらるるい何と通と

おまらるる物といひしつものまらるる事か
ゆふ通ふおまらるるわひかくしと云
為、和よ属ととふ知らん 望凍春到之狐疑
らまはらふ事らるる

中下のい

棹かい 和名加以高葉第二は奥津加伊又邊津加伊
同十は賀伊のちるも和語の下にいの字をくも
事まらるる政況を自てとふ重て出と

當麻 たいま 和名多以末履中紀は當麻^子同常此
御尋に咳^子摩^子知古事記は當岐^子麻道^子御尋

當^{タキ}藝^ニ麻^ニ知^トあり^ニ垂^ニ仁^紀よ^ハ當^ニ麻^ニよ^リたい^マ也
點^トと^シこれ^ノよ^クあ^リた^キま^とたい^マとい^ハか^レり
い^ハし^キ同^ノ顔^ノ相^ノ通^也也^ハ當^ノノ^ノ字^ハ萬^葉第^六よ
山城^國相^樂郡^布當^宮又^布當^野とも^ウき^リ又
第^十一^よハ^ハあ^まつ^こら^とい^ハを^當都^心と^スリ
今^ノこれ^をあ^まつ^こら^とい^ハ俗^書よ^リた^えま^とい^ハか^レり
上^ノ字^音タ^ウい^ハキ^ハえ^ハ割^ハあ^リハ^シ聲^ノノ^ノ變^也と
い^ハる^ハ當^麻二^ノ字^入音^あく^名付^テ和^割よ
い^ハれ^ハと^もい^ハる^ハあ^まつ^こら^とい^ハ迷^ハさ^レり^ハも
あ^まつ^こら^とい^ハ和^割ノ^意ハ^知れ^レれ^ル也^トい^ハす^ハ也^ト

い^ハか^レた^いま^と通^リい^ハか^レる^ハあ^んと^{あり}
ま^名を^あり^テあ^まつ^こら^とい^ハ播^磨因^幡等^比と^し
又^ハた^えま^とい^ハる^ハ誤^{あり}

築^塙つ^いひ^ら和^名よ^リ豆^以比^知つ^いハ^ハつ^まと^いま^い
同^ノ顔^ノあ^く通^リい^ハひ^らハ^ハ土^形を^ひら^いと^いふ
あ^まつ^こら^とい^ハる^ハ事^{あり}又^ハつ^いハ^ハら^とい^ハふ
同^ノ事^{あり}又^ハ胸^を和^名よ^リ豆^以比^知伊^老と^いふ
ハ^俗ノ^ノ腰^板と^いふ^ハ物^{あり}俗^ノつ^いひ^らと^いふ
畧^{して}つ^いち^のも^くい^ひる^ハあ^まつ^こら^とい^ハる^ハ誤^{あり}
く^ハ誤^{あり}ノ^ノ風^雅の^ハあ^まつ^こら^とい^ハる^ハ地^ノ字^をあ^ま

して俗多の事を知りしに其執事多ありて
出と

老にい萬葉第九は意伊豆久安我未け意ハ
老就我而多り和名は遠江國長下郡老馬
駿以又老繫加計又日本紀間人連老自注老
此云於喻とありこれやいゆ江よのかさひ
るり老做名まにむを執事と俗多よりて
悔とい天智紀入るは俱伊とわたり又萬葉第十八
元正天皇の御前よたばとすきこが久伊ていふ
不うらよん又十四は伊波久敵乃伎美我久由倍伎已

許呂波母多自んれとくくやむくいくゆと痛ふ
友あり又同第ニ河岸之妹我可悔心者不持
これも河のさしはるるおるる多よまこと事
妹ぐらふちやうあつあつあつあつあつあつあつ
とく河岸のとりまに俗多よくおとと
いふまにいふおわの下にきくおひくを
とかなぬをあつあつあつあつあつあつあつ
糸よい俗多萬葉第二は糸入とて第十はハ
糸納とてきりあつあつあつあつあつあつあつ
そととも云くこと糸入の時糸はま入いりあり

百二
一日者千遍糸入之東
乃大才御竹手入
不勝鴨
五十六為壁正痛也
中村申 糸綱来互

ね

蘭ね 和名よ為又鷲尻刺さきのこりび
將わろ又率帥ひきわらも假名おね
田舎ねふろ 萬葉六よ^井居中和名井奈加
院ねん 王眷切多之 二回相通款吳音ね
韻ねん 居鎮切源氏よたねん又ねん
堰埭ねせき 和名井世木
守宮ねりり

中下のお

行器ほろお外居とも
雞栖 ともお 和名鳥居也
宿直 ともお
乞覓かぬお 和名加多井
地震 ともお 武烈紀御製 那^井我^が与^り里^り據^こ魔^ま
髻名髪ふまお 和名 奈^乃為^乃萬^万葉^葉十六^{十六}日
芒元 ねほね 萬葉十四於保為具佐和名於保井
大炊寮 ねふねのうき 和名於保為乃豆加佐
鳥芽 ねむね 和名久和井

詣 まわてはてともまわてともいふ萬葉才十公
麻ニ為ニ泥ニしとき又未ニ為ニ之ニとせと又朝ニ參ニ
又廿二上麻為氏ニまのニと又藥師寺佛足
石讀歌よこのこととをにつひりてあてられ
いとのいふ國よハ和禮モ毛麻ニ胃ニ氏ニ年ニこれ
あわての澄ちりまわてハわの下にて通せり
紫陽花あぢさゝね 萬葉集四巻九上味狹藍サ和名
よハ安豆ハ佐為ト草類ハ入りり
用 かりお

ヲトシ

ひ附

標 いちひの和名は標子地以知 元奉紀到徳春日食ニ
標井上イナヒ古事記中巻孝昭天皇後イナヒ壹比ニ草臣ハは
上の標井を氏とせり之同巻上應神天皇の御前
伊知比イナヒ草能ニ和途ハ佐能ハ途ハ衰ハと標井の和珥ワ狹
野土をるり用明紀云赤持此云伊知比萬葉十六
乞食者歌は伊智比以上いりひより久しうり
おとがもろ敷佐也にこれを執とせ明澄を
出と
蓬葉 いちひの雄略紀蓬葉此云伊致寐姑イ

いりよ別種なりいりこもいりこ
槭 いひ 和名以比後撰^{イヒノミ}池^イの^ノい^ハの^ハい^ハの^ハい^ハの^ハ
か^ハい^ハの^ハか^ハの^ハか^ハの^ハか^ハの^ハか^ハの^ハか^ハの^ハか^ハの^ハ
日本紀よ^イの^ハい^ハの^ハい^ハの^ハい^ハの^ハい^ハの^ハい^ハの^ハい^ハの^ハ
書小い^ハの^ハい^ハの^ハい^ハの^ハい^ハの^ハい^ハの^ハい^ハの^ハい^ハの^ハ
い^ハの^ハい^ハの^ハい^ハの^ハい^ハの^ハい^ハの^ハい^ハの^ハい^ハの^ハ

飯 いひ^{イヒ}佐^サ出^デふ^フい^イの^ノい^ハの^ハい^ハの^ハい^ハの^ハい^ハの^ハい^ハの^ハ
物部^{モノベ}影^{カゲ}媛^ノ子^コの^ノ拖^{ヒキ}摩^マ談^{タン}備^ヒ播^ハ伊^イ比^ヒ佐^サ倍^ヘ母^モ
理^リ日本^{ニッポン}紀^キ萬^{マン}葉^{エフ}飼^ケ飯^イ神^{カミ}社^{シヤ}を^ヲ延^{ノボ}喜^キ式^{シキ}よ^ク氣^キ
比^ヒ神^{カミ}社^{シヤ}七^{ナナ}座^ザ古^コ事^{コト}記^キ同^{トウ}播^ハ磨^マ磨^マ國^{クニ}郡^ノ名^ナ揖^イ保^ホを^ヲ和^ワ名^ナ

小伊比保三代實録并延喜式^{イヒノミ}六^ム粒^{リツ}の^ノ一^{イチ}字^ジを^ヲりて
い^ハの^ハい^ハの^ハい^ハの^ハい^ハの^ハい^ハの^ハい^ハの^ハい^ハの^ハい^ハの^ハい^ハの^ハ
奉^{ホウ}と^トい^ハの^ハい^ハの^ハい^ハの^ハい^ハの^ハい^ハの^ハい^ハの^ハい^ハの^ハい^ハの^ハ
い^ハの^ハい^ハの^ハい^ハの^ハい^ハの^ハい^ハの^ハい^ハの^ハい^ハの^ハい^ハの^ハい^ハの^ハ
を^ヲ加^カ太^タ加^カ之^ノ木^キ乃^ノ以^イ比^ヒ強^{キヤウ}飯^イを^ヲ古^コ伊^イ比^ヒ油^ユ飯^イを^ヲ
阿^ア布^フ良^{リヤウ}以^イ比^ヒ糝^{セン}を^ヲ保^ホ之^ノ以^イ比^ヒ諭^ユを^ヲ加^カ禮^{レイ}比^ヒ於^オ久^ク留^{リウ}
俗^{ソク}云^ク加^カ礼^{レイ}比^ヒ餅^{ヘイ}を^ヲ毛^モ知^チ比^ヒ餅^{ヘイ}を^ヲ久^ク佐^サ毛^モ知^チ比^ヒ糝^{セン}
を^ヲ毛^モ知^チ乃^ノ与^ヨ祿^{ロク}と^トい^ハて^テ毛^モ知^チ比^ヒの^ノ与^ヨ祿^{ロク}と^トい^ハん
これ^レい^ハの^ハい^ハの^ハい^ハの^ハい^ハの^ハい^ハの^ハい^ハの^ハい^ハの^ハい^ハの^ハい^ハの^ハい^ハの^ハ
第^{ダイ}三^{サン}阿^ア提^{テイ}飯^イ高^{カウ}牟^ム漏^ロと^トい^ハ阿^ア比^ヒ在^イ田^{テン}飯^イ高^{カウ}ハ

今の目高小くは伊國の郡の名々に飯高を上略
して日高と云ふは備中哲多郡大飯於保萬
葉第五可例比波奈之餉ハ無シ也和名
鞍馬具ハ韜賀礼比都氣餉著の義也
標子加礼餉筈の義破子和利有り駿河國
益頭郡澤食比これ食ハ飯ハ佐比以比の
略有り茅鴉ハ以比止与飯名と飯豊とカあり
和名ノ算以比之赤蟻伊比阿里伊勢飯高伊比多加飯
野伊比並子那の名出雲國郡名飯石伊比
以上飯の飯名以爲ハあり以比ハ多也

雅稚の誤してあり
たのむ

仰て先賢ふと云ふ一
菫はちすれをひ和名波知須乃波比筵書式第
之十九内膳式は荷葉雜葉七十五枚波斐文四把
半云後撰ははらとる此れをひあそくはあそ
世よりひびの中ふひつゝ額昭の義すくらさ
身をかりんといひかきとる人といひが
あつたのちをふるはるりにて此のちを
思ひてと蓮のいひよせそもあつたり
これをも俗に云ふありて出雲葛葉荊と
云ふを和名は葉比社仲を波比末由美い

ついでとてふ故のありり

灰いのい初はつ名な一い灰は聖せい灰い以も之を比ひ藜れい灰い阿加佐乃岐

後拾遺集ごしゆいしふ一い紫むら乃の中ちゆう而を降くだらる藤ふじのを池い也なり

すはぬぬふふりりままりりととははととをを降くだらるよよははくくひひをを公こう

すすりり物ものををれれぬぬ友とものかかつつののくくふふぬぬいいひひすすとと

よよせせららりり俗じやくををよよくくいいととききてて灰いのの音ねはは轉てんなりなりとと

執しやくとと呼よばば切きりりととくくささらられれかかいいとといいふふとといいふふ

何なにとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふ

后ご記きにに住すままるる古こ大だい神しん告こ多たままくく真ま木き灰い納なつ部ぶ亦また著しやく

及また比ひ羅ら傳でん多た作さく皆みな散さんはは大だい海かい以も可か渡わたらる地ち

時ときはは灰いとと和わ語ごををててまましし海うみににぬぬるる國くにのの文ぶん字じにに
ててのの音ねははとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふ

新あらたいいひひはは假かり名なををせせよよはは語ごににおおけけららるるややああららるる

沿よれれりり日にっ本ぽん紀きにに珥に比ひ磨ま利りつつくくををるる古こ事じ記きにに

通と比ひ婆は理り萬ま葉えつ第だい十じゅう四しよよつつくくとと稱しょうのの命めい比ひとといい

ままゆゆ又また爾に比ひ多たややまま又また半はん爾に比ひ多た夜や麻ま上じやうのの新あらた

田た山さんををすするるつつらら小せう新しん田た山さんとといいふふ又またああららるる

小せう仁に比ひ久く佐さままりりとといいふふ又また爾に比ひ半はん路ろ能のう又また仁に必ひつ岐ぎ也なり

ななれれ又また十じゅう七しちふふ命めい比ひ可か岐ぎ能のう之の立た山さんとといいふふ又また

越えつ中ちゆう新しん阿あ郡ぐん之の又また第だい二に十じゅうよよ今いまかかららるる命めい比ひとといいふふ又また

和名攝津嶋下郡新野命比遠江城飼郡新
 井命比新野野命比駿河有渡郡新居命比益頭郡
 新居命比武藏郡名新座命比近江淺井郡新
 居命比上野耳樂郡新屋屋命比播磨揖保郡新田命比
 多備中哲多郡新見見命比阿波名方東郡新
 井命比勝浦郡新井命比讚岐河野郡新居命比乃美
 新屋命比伊豫郡名新居命比越智郡新屋命比
 喜多郡新屋命比筑前席田郡新居命比鞍手
 郡新分命比肥前高来郡新居命比又上野郡名
 新田命比又越中郡名新川命比加波命比いよ命比いせ命比

についとも云ハ合掌カッシヤウ甲曹カウキウあつ入聲の例也
 萬葉小いにいさ山をいひいさ山とありけり
 山をいひいさ山とありけり
 ひとふとお音のうらにそ通をりいれをい
 えておおとかく澤をわけて宗ミナ抗コウの迷ひを返し
 小ちいさいせふらいとあまま俗古にもそんを
 執シツとるぬまま澤をいひいさ山とありけり
知比佐信濃郡名小縣知比佐加多知比佐禪知比佐乃小蛸魚
知比佐石衣知比佐木知比佐古知比佐の流知比佐あ知比佐ら知比佐み知比佐あ知比佐り知比佐
 先賢知比佐あ知比佐ら知比佐み知比佐あ知比佐り知比佐

甥をひ和名字比附姓姫米比俗者小をいれいと云
 海と御と上とをいひあしり男女成ら
 ありりよもにひいよの志をて名成ら
 ととてを何らみりふ政人又和名甥
 之子為離孫男無高古比比とてり合意染甲申比又
 のりてとてのりよをけりる比事
 つきとあひ出されたる人のありあ高の子比
 ありりああませんをいよのああ
 出しりしける句は返をふり程後若
 したるい甥ハ出しる事はいとし意

比附系かそらんゆ

檀日宮 かののなる名仲哀紀よかると是を古
 事記よ筑紫訶志比宮萬葉よ香推これを
 和名よ加須比と流と姓氏録よ糟氷とけ三代實
 録よ香襲とかきり世よ推を信て志ねと高
 俗者よこれをかおととて高なりあり
 檀日とかきりかおとつを糟氷とかきり
 かすねとつとてやあ高なり
 貝かひ俗者よ今の字の音にぐかいとて高
 世もかいとかきりも見ぬれハ高かひる高

くらぐ引和名貝加殼和名与 虫の皮甲也又文蛤
伊太夜 蜺貝之比美 貽比伊加 魁蛤乃加比 紫貝字無木
加比 貝蛸加比 古事記上云其猿毗毗古神坐阿那訶
 時為漁而於比良夫貝以比至夫 其手見昨合而
 沈溺海鹽云比良夫貝といひて上三字を音
 とひ貝ハ神代よりかひりきる事すきめんり
 同下卷よりつるい乃あひゆのんま乃加波賀比
 と乞恭天皇乃皇女衣通王のみ経りけり時又字
 已りりてしまふ之りし万葉第十五和須礼
 我比又いほとふ可比をひりふと又いひとれ我比

同十八なるこのいほはよれ可比の同たよ可比あり
 せん菅家萬葉よりちの春のやあふ貝カイナシ 那之
 和名大和國添下郡鳥貝止利 後撰といせの海
 ちひらの海よりむりふまを今河てふいりま
 可新古今上塔の中にもいふ浦くはぬはあ
 今、我比入りりふいも好むかひのあなは
 あきく漬らるむねおり又和名子卯加比古 是を
 多かひもいり貝子カヒコ の名又和名龜貝カヒコ
 部文字集略云龜蚌之屬甲曰介甲音俗 云古不かひ
 うきそ介の音なりといへ龜の甲をも貝と云す

甲は色治類をれと云
 俗言古不し和名よき
 古のたれとありと云す
 甲のたれとありと云す

此比

そやう四巻のまきれにふし標注よりいふに、
俗云とておれりや

宵よみこれ信ちよあねとわく一しんあねと
後をひてたよらり先恭紀は衣通姫の
わかせこがく手豫臂よりうたのそのあ
あひ鹿豫比とあり萬葉第十四より
興比欲利又ゆけふも許余比とあり又六
帖のあふあねはひひらちあねあねの
流のあひまあひま一ね登陽花は四葉
吹流るれはあひの能なるあひまあひま
魂たすひ萬葉第十五は多麻之比第三は此

心精誤

心神又精神を心たすひを照らす事た
れと能なるあひまあひま
中よこれのあねはひ魂多麻之のあひま
これの之比を付する河の意とあり
の字をくひまありこれを上略して
又魂の字をひまあり神皇産靈を神御
魂ともかき高皇産靈を高御魂ともかき
皇産靈此は美武須毗と神代紀は自
け産靈を産極日とも云り
あひま又くひまあひま

たわさる事の際より一奇日^{カシヒカタ}なりといふ事也
此奇日と上略して付くは神祕の物なり
なりこれも怪しきはありてふ事なり
ありせよとあるもかきよ吉き物よおともあり
事文よりこれ流れることこれなり
鯛^{タイ}はひこれ世よはいとあり俗にこれを
をあると云ふ事なり重く漁をあり川智を
太比尨魚久呂太以延喜式第一平魚とわれ
つちを思ふはひなる魚を太比良の略なり
拾芥抄宮内省祭文とあり新舊ハ

ありは中よ鯛の平らる鯛の海益とあり
なりはひと云ふものひく平如堂の物也
いづらうと云ふ事なり平らる事なり
ありはあり平とありはひとあり人なり
るる上神代紀上の在平處を伝へ陀毗羅
とあり萬葉集や古事本庭令敷美多比良氣
受同女多比良氣久也といふ事なり類聚
史に藤原右大臣園人延成天皇の皇太子乃
南池は行幸しはまも奉りはまもなり
の日にはめりふはひ多比良波なり

ねくつひのつひにひいといふの都平安城あり
以上平急よかればつぎは付て朝の假名の流は
急より古帳よりかきとせむの流よりひい
ひいさねいふかきとらんこれまたひいさね
ひいさねいふかきとらんこれまたひいさね
俗子の音ねのゆあふおろぬかかるとさりに
人のつゝあをくらまふあをさるとさりに
曾許比るこひこれ又るこねるとさ俗ちまも
ぬあむとあふ萬葉集第十巻よあつりれ曾許
比能宇良尔あがとく君ゆとみんくはさね

あはれとこひの流の意と退部とくさふ
ゆるこひあふ別あはれとくさふのさふ
あはれとあふ別あはれとくさふのさふ
義入里子よあつりる物

遂 けひの世よほおみとくさ、俗ちまもこれを批
と古事記中巻武内宿禰の事よ那賀義古
夜都毗途新良牟登加理波古牟良新萬葉
集廿五巻惠都比余

愁 なるのひよ百葉集四巻奈麻強とかなり
生強の意なるまは古事記の爾稍取依其御琴

而那麻那摩迹^{ニヒキニス}坐^ニとあるは、その意なり

俗よなるあつらひのつとむも通しては、ゆゑに

勢會愁心疑僅切爾雅強也詩不愁遺一老

注心不欲自能彊之辞和語の人は是れなり

鵲^クく^クひ^ヒ和名よ久比一云古布

杖^クく^クひ^ヒ和名よ久比ます、採ハ久比宇都應

神紀よ委愚比菟區古事記よ昔具比宇知

ぬぐひの堰杖をぬせきのあふうの杖なり

又古事記よ許母理久能波都勢能賀美都勢

余伊久比袁宇知斯毛都勢余麻久比袁宇知

伊久比奈波加賀美袁加氣麻久比奈波麻多麻

袁加氣云^ニけ^ニ哥^ニ萬葉集第十^ニ子^ニハ伊^ニ抗^ニ真^ニ抗^ニ

か^ニり^ニけ^ニい^ニひ^ニ上^ニの^ニぬ^ニぐ^ニひ^ニハ^ニあ^ニは^ニ能^ニ名^ニと

あり伊ハ^ニま^ニす^ニる^ニ自^ニあ^ニて^ニ只^ニく^ニひ^ニを^ニい^ニは^ニれ^ニり^ニ

扱^ニる^ニ時^ニ乃^ニ事^ニ少^ニて^ニ忌^ニ杭^ニと^ニ云^ニ略^ニ杭^ニを^ニ杖

用^ニる^ニハ^ニ非^ニあり^ニと^ニ云^ニ和名よいつる

株^クく^クひ^ヒ和名よ久比世古事記倭建尊の四多

六^ニ斗^ニ迦^ニ麻^ニ途^ニ作^ニ和^ニ多^ニ流^ニ久^ニ毗^ニ比^ニと^ニあ^ニま^ニせ^ニれ^ニり^ニ

これハ俗よ木のくやといふなり

水鷄^クく^クひ^ヒ和名よ久比奈皇極天皇紀よ水鷄

此云禰比那仲文家集云院の大おのりさ
あひのよらやぬあそくをんく仲文
やのりまいものるれぬあそこのれしん
あそくくるきしぬ一侍後の志はまたぬ
たぐくのきせくぬぬぬぬぬぬぬぬ
くあしきくやの厨せうて食すしんあひさく
ぬあそくぬくともあつものるの料はくぬぬぬ
るあしきくの水鶏を食菜とくぬぬぬぬ
るあ假名ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
毒くこれをほと但武士ぬぬぬぬぬぬぬ

極とくハつ水鶏とくぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
^{頭無}ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
^{頭無}ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

胡録やまらぬ 和名夜をふ久比
吹飯浦 あひのぬぬぬ

鯉 こひ 和名古比とあり六帖よゆぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

ちみよふかひしあ人のゆゑあひしにけり
 ちみよふかひしあ人のゆゑあひしにけり
 上ノ六帖の奇みよあせあるまゝ 忠見家集
 八咫のつとれ 兼盛家集よりとれを
 源仲正集より寄池魚 「いふまゝにひら
 世さこいしちあふら徳を信ちよ能すの好よ
 志のあて清の奇しさをいふこゝろをいふ

能と

葦芽あかひ真名ハ神代紀あり 能名を
 和照あり 古事記ハ所新訶備とあり
 七首めいひ 和名米之比 又清首所波之比
 姪 あひ 和名米比又甥之子為離孫也 無萬古
 推 あひ 和名米之比 日本紀ハ推地之辭也
 古事記宣化天皇殿ハ火德王者志比陀君元祖
 神天皇の湯あり志比 新郡須任知比草干
 能これ推のふしとある標とつらるる也

こつあし志のあふ事ゆゑも也強を志ぬと云
俗あふも強の意重てまゝに辨へては侍り
額 ひさむ和名比古比又敬髪比太 比太これいせの
髪乃かざり額よりあつらぬの名なり又石龍葛
字之乃 又戴星馬 比太比 能無麻 又細辛 比木乃比 比太比 佐之木
假名の流なりひさむと云くも佐あふを
らしむるやうにそまよふこと

ひさあのみひ は假名のまゝにけり流と云く
又よるは侍り初と齋宮廿御集よりりふ
おしせし時ひさあのみひよき又あふひさ

社の前乃あふおまらる事よく又中務家
集ふ中宮のひさあのみひをかりのこすは
みつたつひひのひさあのみひ

はかりもあふあふをまをるはるやえは
又あふいん^んの廿御中あふまらるる
ひさあのみひ

白波よそのひを秋いぬめしひさあは昔もそのひ
佐平のあふは流と云くはれと云く一因は
ひさあのみひ又ひさあのみひは
ひさあのみひと云くはれはひさあのみひ

此一首、他のある十首のうち、此の如く、流をそへて、
ゆるこれありやよ、いす、いそ、こを、や、
事見ありと

黄卷、ひらき、和名、此、良木、又、巴戦天、
比良木、此

巴戦天、草部、ふくし、れ、ふ、し、と、若、考、の、下、ふ

一名、巴戦天、あり、ひ、ひ、ら、ふ、や、も、同、く、お、ま、ま

お、も、本、は、通、と、る、ま、し、古、事、記、上、比、比、良

木、又、中、小、給、比、比、良、木、之、八、尋、予、續、日、本、紀、下

大、寧、二、年、造、宮、職、獻、社、谷、樹、長、尋、
比良木、此

第、四、十、七、ふ、左、右、兵、衛、の、奉、ら、知、杖、の、中、ふ、比、

良木三束としつり或はひのこ或はひのまとを
本好よの流をいふなり

住すまのいすまの萬葉第ニ、
トシノナナカク、スミヒツ

座之物、辛同五、ひ、あ、つ、と、せ、周、麻、比、都、
イニシヒ、モツ

ら、れ、い、す、ひ、ま、も、同、く、住、居、と、さ、て、依、え、も

ま、あ、ら、ら、の、家、居、も、あ、ら、ま、つ、あ、ら、ま、つ、
推

相撲すまのい、整、る、須、未、比、遊、仙、窟、
推

ま、あ、ら、ま、つ、あ、ら、ま、つ、あ、ら、ま、つ、
推

う、ら、ま、つ、あ、ら、ま、つ、あ、ら、ま、つ、
推

あ、ら、ま、つ、あ、ら、ま、つ、あ、ら、ま、つ、
推

いふ路ち細きあはるるさしはあしよふのさし
さるる抄結よさるるさしはあしよふのさし
かたがはあしよふのさしはあしよふのさし

田部 万葉 万葉 万葉 万葉 万葉 万葉 万葉 万葉
万葉 万葉 万葉 万葉 万葉 万葉 万葉 万葉 万葉
万葉 万葉 万葉 万葉 万葉 万葉 万葉 万葉 万葉
万葉 万葉 万葉 万葉 万葉 万葉 万葉 万葉 万葉

を

岑 又峯又丘
又尾並同 萬葉第十四よびなりぬこの峯
可都 乎 の又同乎むらつ 利能倍也和只尾と
いふも尾上をいふ路同くぬ名をさるる
世ふあの子をかさるるい 倍ちふも推さる
あぬい いと 但さふあしよふのさし
おはり世よ中尾の字をありさ下の尾よ
つるさるるい

雄 を男同 これ世ふあしよふのさし
あし神代紀よ雄詰地よ鳥多御眉鳥ハ

とるり素盞鳴尊古事記六須佐之男命
の形とるり姓氏録よ素盞能雄命神武紀不
雄水門和名小味泉國日根郡に呼喚郷あり
半と依名をつく是歎及喜式よ男神社
よれるるりさの雌雄に和名よ半土里とあり
又次下の尾よ通して別とるり畧す

尾をせよび尾の字一切よおを別と思ひ依り
とるりさよ半と依名をつく是歎及喜式よ男神社
よれるるりさの雌雄に和名よ半土里とあり
又次下の尾よ通して別とるり畧す
第十八羽族體部 野王按尾 漢鬼叛鳥獸

尻長毛也 鞆字木 鴨尾琴止比乃 駿馬能字麻
尾張を景行紀よ日本武尊の少歌の由に
鳥波利そのゆきを古事によ哀波理拾
遺集物名よをばるりさを思て池とるり
とるりさよ半と依名をつく是歎及喜式よ男神社
よれるるりさの雌雄に和名よ半土里とあり
又次下の尾よ通して別とるり畧す
津都遠江敷智郡尾間萬甲斐八代郡
沼尾都近江高嶋郡三尾美信濃水内郡
郷名小尾張半備前オホク邑久郡尾沼半収
同郡尾張半八半讚岐寒川郡長尾半賀半鶉

足郡長尾^{終加} 伊豫和氣郡高尾^{終加} 雄略紀
小吉備尾代^奇にみりふあや鳴^之之屬能
古乃ふかるる尾代子と武勇を自稱と
萬葉第十四よ山どりの平呂能波都^{平爾}
かみけ尾の末尾るり呂ハ助^渡るり木朝
文粹宮一前中書王の菟衣賦云吾將入
龜緒^一巖隈自注云龜緒使龜山也猶如
龜尾^一尾讀之故云又萬葉宮十六小退莫
立林^示尾^示女が又うらひのよまの尾見^示る
は^一のよののま^一尾又春さりて野邊^尾めく

れを又秋きて山さる尾のきハ又わり^路
尾^一のよハ又くら尾^一無ひ^尾力^一て以上
し^一の^一第^一十七^一つ^一の^一川^一の水^一緒^一さ^一え^一す^一れ
常^一小^一水^一尾^一と^一く^一ある^一第^一八^一の^一平^一尾^一第^一十^一
あ^一の^一の^一夜^一都^一平^一の^一つ^一き^一又^一の^一の^一つ^一き^一
平^一乃^一倍^一平^一又^一尾^一花^一と^一萬^一葉^一第^一八^一の^一平^一花^一葛^一花^一
第^一十^一の^一平^一花^一我^一下^一之^一思^一草^一又^一麻^一花^一押^一麻^一置^一露^一
爾^一又^一平^一花^一之^一末^一平^一林^一と^一の^一の^一第^一十五^一の^一波^一
都^一平^一花^一かり^一ほ^一の^一第^一十七^一の^一平^一波^一奈^一布^一波^一
の^一秋^一乃^一又^一の^一平^一波^一奈^一布^一波^一の^一波^一

類聚國史第三十二平郡朝臣賀是麻呂歌
あひふゆめあひふゆめ大治の半波奈能須
惠平ふゆめあひふゆめ古今物名をとんち
をとりとこの世をとめいやはひのあひふゆめ
隠し高尾を高雄とせ水雄とせ尾とせ
敷ねある下し猶ひ敷のとも原もあま
てあまののさゆめうらま事おとすと管見果
念施和伎西物尾管九は屋外借申尾十二ふ
なまつてあひふゆめ鬼尾又妹うあひふゆめ
小あ申尾又ありそんも有申物尾又枚浦

乃あまゆめ申尾又らのとんちまあひのさ申尾同十
二あひふゆめあひふゆめ鬼尾又あまはまゆめ
高尾申尾又妹う下紐とらとら申尾又あま有
申尾玉藻とらとら十子神尾母のゆめはゆめ
十六みるのつるかづらなる神尾
姨をば但和名よ母方の半波父の姉は伯母妹ハ
叔母よふ和名あひふゆめ姨捨山ふのかあよふゆめ
余世末住ふ甲斐又國守りのありてとんちあま
あひふゆめあひふゆめあひふゆめあひふゆめ
のなありとそあひふゆめあひふゆめあひふゆめ

る女子のまゝいふはあはれむかひにたはらひまはるる事
尾羽といふは伯母とさしうらりしむらむらふ
叶なり

終るとはると萬葉十八の許登平波里同古事
之平波良波薬師寺佛足石赞歌の和歌
波平閑年又已乃与波平閑年新古今に
南無阿彌はほけのみてふうら系のとら
みくぬらともぬこれ下の句がぬらと
事なり但系の志をつきうらら
け伝名の二流ともさ

少男をてこ神代紀は少男は云鳥等孤女
此云平等味これとあはれとをさ
むをことあはれ理るりわら世は浮ておの字
ゆまをて俗女又乞を扱とさうそり
院をりあめをほり伝伝名を知り
古事記云訓壯夫云哀等古一萬葉集古
ととの遠乃古依備と同十四の伊射西平騰
許同十五の月人平登祐十九の知努平登十
古の平登古平美奈能波奈又安豆麻平等故
補徳紀の記は平止賣良雨平止古多智穂

是可有新由也言是平礼加加無也是可折屈
身體而具聞也推古紀馬子大臣の御馬
呂餓彌氏免伽陪摩都羅武これとて
てといふや

掃をけ 和名平計行阿の假名遣は掃との
いふ所の假名はけし掃といふ所をけなむ
いふ所阿の意は推量するふをいせくか
いふ所ありて平声なわたりてす急去声のまりて
いふ所いふ重く上声のあつとをいせくし
假名遣定めての掃とのいふ去声のなるひ

小掃の上声のいふはて假名をかくは方々也
音の假名大いふを月曼音ハあむ階敷重
あむのいふのりよ出たり急去声のいふは
急去声のいふは急去声のいふは急去声のいふは
假名を分ふは四十七文字の各平上去の三音の
百四十一文字なりし若平声と去声と急去声と
ありはるむ九十文字なりし若ハあむをいふは
これの急去声をさうする各二字をて合て
十二文字なりし理也假令いふは急去声の急去
色好ハ上声色ハ去声なり急去声の急去声

越前平鏡後上越中、去声也、字、こま、か、の
 おし、くる、を、と、れ、と、の、し、の、て、い、お、江、を、何、を
 い、と、ら、文、字、も、ふ、声、も、ら、り、て、と、あ、る、也、行、何
 乃、誤、根、と、ら、り、そ、を、ふ、ぬ、ま、と、所、謂、一、旨、の、庇
 旨、故、と、ら、ひ、く、也、桶、を、を、き、と、を、ハ、麻、筥、も、似
 づ、ら、り、と、ら、り、ハ、麻、筥、か、の、俗、の、を、こ、け、た
 ぬ、り、と、け、し、も、い、の、て、昔、を、い、り、入、り、物、多、り
 今、義、辨、も、女、神、よ、り、ハ、麻、筥、を、と、ら、桶、と、せ、は、り
 延喜式第十五内藏式云水甕麻筥三口水麻
 筥五口杓十五柄十九内膳式云越後雜兒水頭背腸
 各四麻筥別斗



同四十造酒司式云造酒雜器水麻筥二十口
 小麻筥二十口萬葉十三よ、を、と、め、ら、麻、筥、小
 麻、筥、を、と、め、ら、長、門、の、桶、も、と、又、乱、麻、の
 麻、筥、を、と、め、ら、同、十、四、よ、あ、り、と、を、遠、家、小
 麻、筥、を、と、め、ら、後、も、と、い、り、今、ハ、麻、筥、も、桶、を
 別、式、ハ、桶、も、麻、筥、を、別、し、れ、麻、筥、も、桶、も
 多、り、ハ、小、通、り、也、萬、葉、ハ、遠、家、和、名
 前、ハ、半、計、延、喜、式、ハ、小、麻、筥、も、か、は、り、あ、り
 て、う、め、け、こ、を、け、と、ら、り、女、樂、大、師、云、依、憑、佛
 説、莫、信、口、傳、和、語、ハ、い、ち、の、人、の、さ、る

氏流と云ふは、その末子の懐説と申すに
箴を字、和名、半佐

通事 譯語同を字、和名、駿河國有度郡御
名他田あり半佐多し、ヲタタ大和國城上郡よ
も同名の郷をそひ譯語田ともカサなり、
駿河の半佐多ひ流として通るも譯語も
を字ともあり、流も成りては也

長を字、里長舟長河長驛長等なり、
を字、萬葉第十四巻を字、流、ヲタタなり、
治を字、左傳よ、日本紀よ、明直又軌削



又幹了、これを流を字、とあり

不賢を字、日本紀よ、又不肖不敏不敵
等を流、外に、ヲタタなり、公忠
家集、近江守なりて、昔之の也、ヲタタなり、
を字、ヲタタなり、ヲタタなり、ヲタタなり、
重之家集、ヲタタなり、ヲタタなり、
流、ヲタタなり、ヲタタなり、ヲタタなり、
字、ヲタタなり、ヲタタなり、ヲタタなり、
を字、ヲタタなり、ヲタタなり、ヲタタなり、
流、ヲタタなり、ヲタタなり、ヲタタなり、

又世

惜^シと^シ雄略紀^ノ鳴^シ思^シ萬葉^ノ第^五い^入ら
遠志^ノ家^ノ騰^ト令^レ悟^リね^モ又^ウあ^ノの^花り^リ
ほ^ク悲^シ之^美又^ウ学^ブあ^ルも^ラま^ウキ^ニ美^シ
第^六之^短也^第也^判之^りく^も好^ク第^九之^家
あ^けま^ク鸞^ノ視^ト十四^ノあ^かゆ^ク海^ノ之^家
け^も好^ク又^アあり^也そ^ゆん^半思^家半^半
又^キん^るれ^判思^美又^十七^ノ之^家の^さる^も判^半
思^美の^之又^なま^まり^のり^判之^家騰^ト
又^旅伎^てい^りん^半思^第九^ノ之^判之^の半^之
伎^ある^も古^くふ^しゆ^のま^のあ^はで^りる^も又^好

又世

ふ^るも^らる^もさ^るの^ひつ^ひは^のえ^にを^そ
す^るも^られ^かを^考ふ^もせ^るも^好也^也
け^自の^名に^世ふ^もか^を好^むは^のを^と
俗^者の^心を^しら^るを^つく^も好^むも^好也^也
け^らる^も好^む
折^敷と^りま^古ハ^柏を^おぬ^も種^供の^盛
人^の食^物を^もす^もた^れか^ハ名^を拾^遺
集^物各^々ら^んし^らる^もを^あひ^の
山^のの^いん^れら^らる^もの^さる^も好^む
あ^りる^も好^むの^儀又^の記^る

庚

中下のを

棹高竿 けを 和名鹿 平日本紀 大山守命の
 指のりれ 同世ふゆめ 佐平けくく
 保川ふよせそまふれくの事うれま
 俗名あまを物とるまよやうひそをま
 小杜鹿此云左鳴子加和訓の之按雄鹿少て

中下の乎

狭、狭山狭野を流くい河萬葉よ、むか
 小杜鹿又小杜鹿やかきりいりひり鹿や
 大鹿ふ新そりり鹿世昂といふ女

第四第八の字を去入の名鹿
人なれんを痕とてしりしよを
男鹿といはれり准うやふし
しやふや多分ちて又ふりし
掉竿の字ぬりしを佐保い
せふゆ信とてしりし

標 **水** 万葉歌に水忍衛石や
依名をかきり忍の字日本紀
八咫鳥をよみかきしもの

意はくして同十四の字半都久思菅家
身緒筑紫初名ふ水脈船とて
水尾水緒とてあり水の流
水脈津藏の意はくしてその
延喜式第五十雜式云丸難波
渡標若有舊標折者搜求
日記よきとてしりし
け依名をいひてしりし

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. It appears to be a list or a series of entries, possibly related to a collection or a set of records. The characters are somewhat faded and difficult to read precisely, but they seem to follow a structured format, possibly including names, dates, or descriptions of items.

和字正濫要畧上

Handwritten mark or characters on the left page, possibly a signature or a reference mark.

